

七月例会 御案内

〔平成三十年・通算第六八七回〕

公益財団法人 協和協会

○ 御案内

七月二十七日(金)十一時半入館可、正午～午後二時半 参議院議員会館 一階二〇二会議室

講 題 トランプとアメリカの将来!

講 師 浅海 保先生(順天堂大学特任教授、読売新聞東京本社元編集局長・同グループ副主筆)

◎ 一昨年、トランプ氏の大統領当選が決まった時、日本人はこの人物についての情報がなかった。記者時代にワシントン支局におられ、カリフォルニア州立大学大学院講師もされ、そして読売新聞東京本社編集局長から編集局長兼副主筆をも務められ、特にアメリカ通で知られた浅海保(たもつ)先生に、トランプなる人物についての分析をお願いした。

そのとき、浅海先生は、トランプをデイル(駆け引き)に長けた人物として、トランプ政権による今後の国際情勢を分析された。それが、見事に当たってきている。

六月十二日の米朝首脳会談を見てもそうだし、また、世界にむけて、鉄鋼・アルミニウムについて二十五%の関税を課すのははじめ、その貿易戦争は傍若無人で、世界中を困惑させている。

そうした予想外の横紙破りのトランプ氏に、日本はどう対処して行けばよいのか、それはまたトランプ政権でアメリカ自体がどうなるのか? 御講話をいただきます。奮っての御参加を!

(清原記)

□ 当日会費(昼食付き) 会員は三千円、非会員五千円。

公益財団法人 協和協会

http://www.kyowakyokai.or.jp

七月二十七日(金)の月例会に

電話 03-3581-1192

FAX 03-3507-8587

出席 欠席 (いずれかに〇印を)

御芳名

貴方様のFAX

メール

当日連絡先

080-8836-6203 重田

080-9292-2620 高津

(メール不可・通話のみ)

▽七月二十五日(水)までに欠の御連絡賜りたく。

◎ 御報告

去る六月十二日にシンガポールにて開催された米朝首脳会談は、事前には、北朝鮮の非核化、それも、「完全に検証可能で、かつ不可逆的な非核化(CVID)を譲らない」としていたトランプ大統領が圧倒的優位と見られていたのに反し、その共同声明では単に「完全な非核化」その非核化も「できる限り早い時期に」とするに留まり、日本が切望していた「拉致家族の返還」は盛り込まれず、ただ、北朝鮮の主張する「体制の安全保障」が目立ったことから、「金正恩の力量?」が世界から注目された。

そこで、古くから北朝鮮問題専門家として知られた重村智計先生(早稲田大学名誉教授)に、「金正恩の力量?と、日本の今後の対応!」と題し、六月二十五日(月)に御講話いただいた。その御講話は広範・詳細にわたったが、その要旨を述べると、まず、金正恩は、シンガポールへ中国の要人専用機で到着した。これに対して、北朝鮮に長距離旅客機がないと中国の後ろ楯を誇示するためとか評されたが、その一番の理由は、北朝鮮国内のクーデタを防ぐためである。

また、金正恩は冒頭に、「私たちの足を引っ張る過去があり」と言っているが、その意味は、「そうした考えを持つ軍人たちを抑えるのが大変だった」ことを意味しており、「誤った偏見と慣行が、時に目と耳を塞いでいた」と言うのは、自国内で「アメリカ帝国主義者が北朝鮮を滅ぼそうとしている」という国内認識が支配していた」ことを意味している、と解説された。

さらに、重村先生は、「米朝共同声明のポイント」-「米朝会談の真の意味」-「金正恩の能力」-「これから何が起るのか」-について、詳細に分析・解説され、大層勉強になりました。また、その後の質疑応答も盛んでした。(清原記)

▽当「公益財団法人 協和協会」とは

昭和四十九年、岸信介元総理によって創立された財団。活動趣旨は、「政党・派閥・利害・打算の次元を超えて、真に国家的課題を調査研究し、特に重要課題は、政府宛要請書を作って、時の政府へ提出することにある。昭和五十四年から本格活動に入り、月例講話会のはかに、八つの部会と、五、六の委員会があり、これまでに百三十七本の要請書を時の政府に提出している。第二代会長は福田赳夫元総理、第三代会長は櫻内義雄元衆議院議長、第四代会長は塩川正十郎元財務大臣、第五代会長代行として、江口一雄元衆議院議員、現在、第六代は代表理事兼会長代行として、岸信夫衆議院議員・前外務副大臣・現議院運営委員会理事が就任している。

▽事務局電話(03)3581-1192

代表理事兼専務理事・清原淳平、総務 重田、高津